

第4章 地域別構想

(1) 地域別構想の役割

これからのまちづくりを進めていくためには、各地域それぞれの現状や課題を認識し、市民や事業者及び行政が『まちづくりの目標』を共有し、目標の実現に向けて協働により取り組んでいく必要があります。

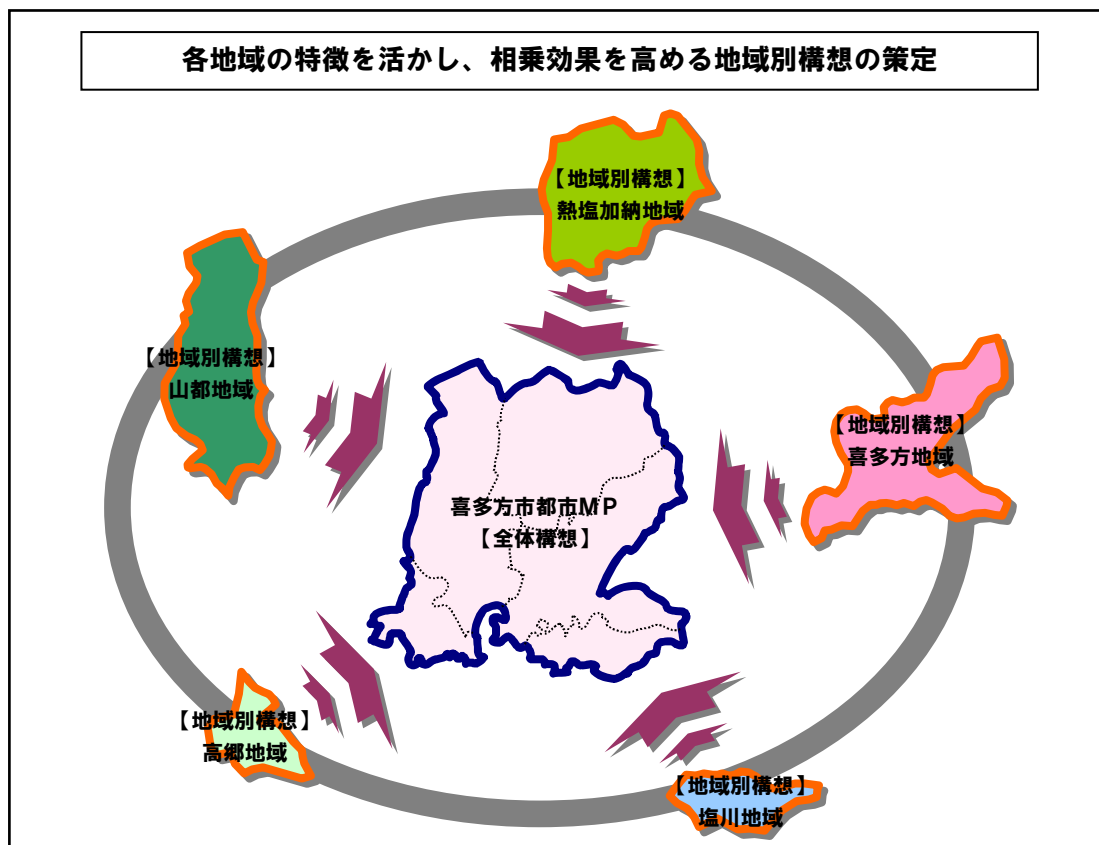
地域別構想は、市全体の基本構想を踏まえ、それぞれの地域が相互に連携しながら、特色のある地域づくりを進めていくための「指針」となるものです。

(2) 地域区分の考え方

地域別構想は、本市の形成過程における自然的、社会的条件等を勘案するとともに、地域生活拠点を中心とする日常生活圏のまとまりを考慮して区分します。

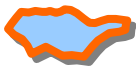
本市を構成する各地域の特徴を活かしながら、それらの相乗効果によって新しい喜多方市を創造していくことが重要であることから、合併前各地域の区域を対象に検討を行います。

■ 全体構想を踏まえ、身近な各地域レベルの視点から特色を活かした地域別構想の策定



(3) 各地域の役割と地域づくりの目標

■ 各地域の役割と地域づくりの目標

地域区分	地域の特徴・役割	地域づくりの目標
【喜多方地域】 	● 中心市街地を含む地域で、周辺は北の熱塩加納地域から南の塩川地域にかけて会津地域でも重要な稲作地帯が広がっている ● 消費や雇用の中心（商業・工業が集積） ● 観光、交流の中核的役割を担う ● 各種公共公益施設が集積し、行政機能や保健・医療・福祉等の機能の中心	【地域づくりのテーマ】 飯豊連峰、雄国山麓の眺望と、豊かな田園風景に囲まれた、水と緑、歴史と食文化がいきるまち
【熱塩加納地域】 	● 地域北部は、山都地域北部と共に広大な森林地域が広がり、市街地や田畑を潤す水源としての役割を持つ ● 自然資源や温泉、有機農業を活かしたレクリエーション、交流機能を担う ● 地域生活拠点は、中心市街地と連携した地域生活支援機能を担う	【地域づくりのテーマ】 緑と清流が育む大自然といで湯、健康とおいしいに満ちた交流のまち
【塩川地域】 	● 副次中心市街地を含む地域 ● 中心市街地機能を補完し、交通の利便性や地理的条件を活かした消費や雇用の場等の役割を担う ● 会津地域でも重要な稲作地帯が広がっている	【地域づくりのテーマ】 阿賀川、日橋川の流れ、ゆたかな田園環境とゆとりある住まいが調和した、川のまち
【山都地域】 	● 飯豊連峰をはじめとした雄大な自然環境を誇る地域 ● 自然環境や温泉、そば等の特徴ある資源を活かした観光機能を担う ● 地域生活拠点は、中心市街地と連携した地域生活支援機能を担う	【地域づくりのテーマ】 霊峰「飯豊山」と一ノ戸川の清流に育まれた、心豊かな山里のまち
【高郷地域】 	● 阿賀川、只見川の大川が山間を貫流する地域 ● 自然環境やボート、化石発掘体験、温泉等の資源を活かしたレクリエーション、交流機能を担う ● 地域生活拠点は、中心市街地と連携した地域生活支援機能を担う	【地域づくりのテーマ】 大河の流れと緑、太古のロマンに抱かれた自然レクリエーションによる交流のまち

(4) 地域別構想の概要

地域別構想は、市民とまちづくりの目標を共有し、まちづくりに対する意識の高まりや、個別の事業を実施する上で重要な役割を有しています。

このため、特に分かりやすい内容とすることが必要であり、以下に示すとおり「地域の現況特性と現状の課題」、「地域の基本構想」、「地域の整備構想」の3項目を基本にカルテ形式で整理します。

また、喜多方地域及び塩川地域は、市街地（用途地域）を対象とした現状と課題についても整理します。

■ 地域別構想（地域別）の概要

項 目		概 要
地域の現況特性と 現 状 の 課 題	● 位 置 図	● 該当する地域の位置を示します
	● 人口・世帯の動向	● 人口・世帯数の動向をグラフで表示します
	● 地域の概況と動向	● 人口等の動向、土地利用状況、基盤施設整備状況、法適用状況等の地域の概況を整理します
	● アンケート・懇談会意見等概要	● 市民アンケート結果より、地域固有の意向を把握します ● また、地域懇談会（2008.06～）の結果から地域の課題や方向性等について整理します
	● 地域の特徴と課題	● 地域の現況特性より、地域の特徴と今後対応すべき課題を整理します
地域の基本構想	● 地域づくりのテーマ	● 地域における目標（テーマ）を設定します
地域の整備構想	● 地域の基本構想	● 地域の特徴と課題を踏まえながら、地域づくりの目標と、地域の整備構想を設定します
	● 地域の整備構想図	● 上記の整備構想を具体の地形図上に図化します

(5) 地域別構想

各地域における地域別構想は以下の構成に示すとおりです。

■ 地域別構想の構成

地 域 名 地域の現況特性と現状の課題 位 置 図 人 口 ・ 世 帯 の 動 向 (グ ラ フ) • 地域の概況と動向 • 人口、土地利用、基盤施設、法規制状況、地域の資源等	アンケート・懇談会意見等概要 • 良いところ、誇れるもの • 地域の満足な点、改善すべき点 • 優先的に整備すべき事項等 • 地域の特徴と課題
地域づくりのテーマ 地域を方向づけるイメージを表す 地 域 の 基 本 構 想 • 地域づくりの目標 (地域づくりのテーマを展開する具体的なイメージ等) • 地域の整備構想 (地域の土地利用の方針)	地域の整備構想図 • 地域の基本構想に対応した構想図

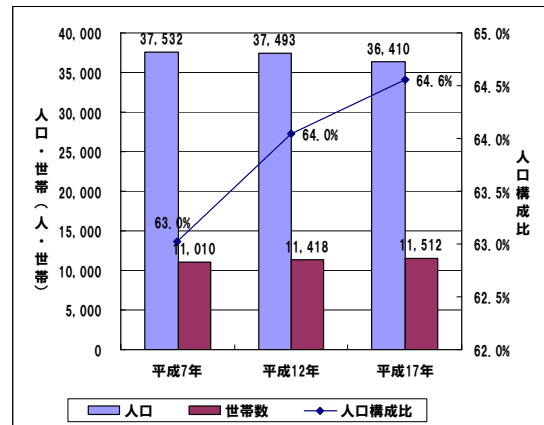
○喜多方地域

地域の現況特性と現状の課題

【位置図】



【人口・世帯の動向】



【地域の概況と動向】

人口等の動向

- ・市全体に対する人口シェアは64.6%（H17）で、喜多方地域の人口は減少しています。
- ・用途地域内は微増していますが、喜多方駅周辺等の中心部の人口減少が進んでいます。
- ・世帯数は増加傾向で、核家族化が進行しています。
- ・高齢化が急激に進行しており、高齢化率（H17・28.7%）は、県平均（22.7%）を上回っていますが、市内では塩川地域に次いで低くなっています。

土地利用状況

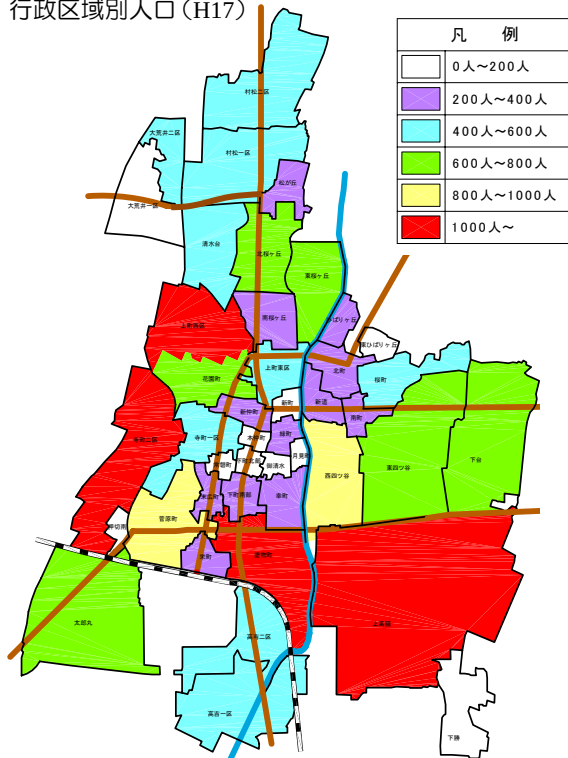
- ・地域の西部、東部は飯豊連峰や雄国山麓に連なる山々が取り囲み、中央は北から貫流する田付川、押切川、濁川等周辺の平地部に中心市街地が形成され、それを取り巻くように農地が広がっています。
- ・市街地が形成されている用途地域内の宅地の約54%は住宅用地として利用されていますが、商業系用途地域内では住・商・工・公共の多様な用途の混在がみられます。
- ・古くからの商店街周辺には、歴史や生活感あふれる「うらみち」が残っていますが、生活道路が狭隘で建物が密集しているなど、災害時の安全性の問題があります。
- ・市役所を中心とした一帯は蔵、ラーメンを中心とした観光ゾーンとなっています。
- ・駅南側は優良企業が集積するまとまった工業地が形成されています。
- ・用途地域の東部、国道121号沿道、特に熱塩加納地域との境界部での開発・農地転用がみられ、商業・工業施設の立地が進んでいます。
- ・国道121号西側や西部土地区画整理事業地区の南側には、まとまった低未利用地が残っており、特に国道121号西側では道路が未整備な状態で小規模な住宅地開発の動きがみられます。

基盤施設整備状況

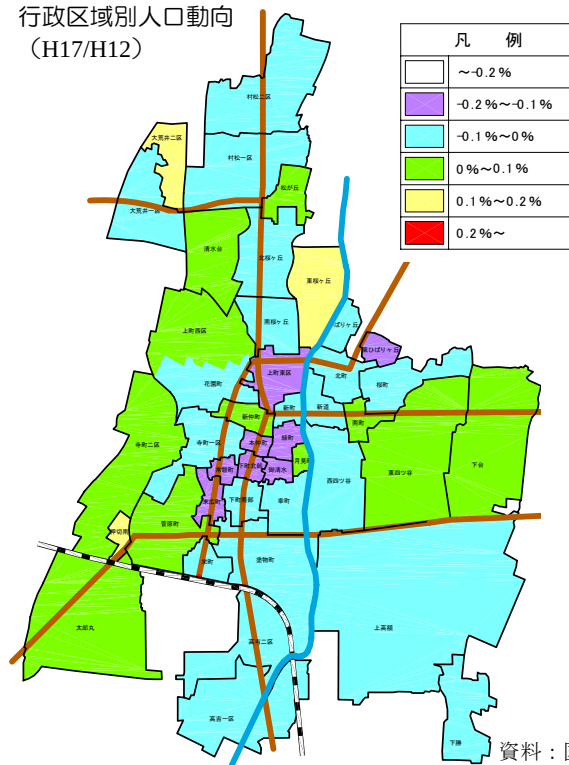
- ・国道121号が南北方向、国道459号とJR磐越西線が東西方向の広域交通軸となっており、この他主要地方道・県道8路線が放射状の道路網を形成しています。
- ・（都）3.4.1 舞台台上勝線、（都）3.4.4 坂井四ツ谷線、（都）3.5.3 西小原北町線が整備中であり、東西方向のネットワークの強化と駅前の交通機能の強化を図りながら景観に配慮したまちづくりが進められています。
- ・用途地域の外縁部を中心に、8箇所土地区画整理事業による整備が行われ、住宅地としての基盤が整備されています。

基盤施設整備状況	- 市街地内の歩行者動線は、都市計画道路の整備により快適でゆとりある歩道づくりが進められていますが、市街地内への通過交通の流入等により、日常生活や観光地として、安全性、快適性に問題があります。また、既存の歩道幅員は狭く積雪時を考慮した安全で歩きやすい空間確保は十分とはいえない状況にあります。 - 濁川沿いの会津若松熱塩温泉自転車道線(会津浪漫輪道)は、鉄道から北側の約12kmが整備済となっています。 「歴史のみちすじ」の整備は、(主)喜多方・会津坂下線西側の約1.5kmが整備され、歴史的景観をたどる観光ルートとして賑わっていますが、8路線のうち5路線は未整備となっています。 - 西部に押切川公園が整備されており、スポーツ・レクリエーションや憩いの場の拠点となっている他、土地区画整理事業地区を中心に市民に身近な公園が整備されています。 - 下水道は、日中線記念自転車歩行者道から田付川に挟まれた中央部は整備済となっており、現在は西四ツ谷地区及び上高額地区の整備が進められていますが、その他の地区は未整備の状況にあります。
生活利便施設状況	- 市の中心的行政、商業、業務、文化、医療施設等が用途地域内を中心に集積していますが、高齢者施設は縁辺部に多く立地しており、立地の偏りがみられます。 - スーパーマーケット等は中心部の外側での立地がみられます。
法規制状況	- 中央の平坦部に都市計画区域(5,779ha)、用途地域(652ha)、準防火地域(177ha)が指定されています。 - 用途地域外の平坦部は概ね農振農用地に指定されています。
特徴的な地域の資源	2,600棟の蔵のまち並みや、120軒以上の店舗が立地する喜多方ラーメン、地酒等の伝統的な醸造品が全国的な知名度を有しています。 - ふれあい通り、小田付蔵通り等を中心に、土蔵、レンガ蔵、石蔵など多様な素材、用途の蔵が残っており、歴史ある蔵文化に触れる貴重な観光資源となっています。 (一)会津若松熱塩温泉自転車道線(会津浪漫輪道)があり、全線開通すれば会津若松市芦ノ牧温泉と熱塩温泉を結ぶ全長約50kmの自転車道となります。 - 市街地を流れる田付川は、うるおいのある景観を形成していますが、散策路の整備など親水空間としての利活用が不足しています。

【市街地（用途地域）の人口】
行政区域別人口(H17)



行政区域別人口動向
(H17/H12)



資料：国勢調査

【 アンケート・懇談会意見等概要 】

□ アンケート結果の概要

●居住意向

- ・「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」が約 80%で市全体の割合より高く、「住みよさ」の評価は高くなっています。
- ・一方、「ずっと住み続けたい」は約 60%に留まっています。

●生活環境の満足度、重要度

- ・最も満足度が高いのが「消防体制の整備」、次いで「国県道等の骨格的な道路の整備」です。その他も市全体の傾向と同じく、『教育・文化』、『環境対策』分野の満足度が比較的高くなっています。
- ・最も満足度が低いのが「商業の振興」、次いで「工業の振興」であり、『産業の振興』分野全体としての満足度が低くなっていますが、「観光の振興」は市全体の数値を上回り、比較的高い満足度となっています。
- ・重要度が高いものの、満足度が低い指標は、「救急医療体制（夜間・休日・救急）の整備」、「病院や診療所などの医療機関の充実」で他の指標も合わせて『保健・福祉・医療』、『安全・防災』分野があげられています。

□ 地域懇談会意見の概要

●地域の良いところ・活かすべき地域資源

- ・自然景観：旧国道 121 号大峠付近のブナ林や雄国等の山々の遠景、国道 121 号東側の田園景観
- ・市街地のうるおいのある景観・まち並み：桜並木、田付川、蔵のまち並み
- ・その他：ラーメンなどの食文化

●地域の問題・改善すべき点

- ・市街地・中心市街地：空き地の有効利用、国道 121 号沿線等の郊外部の店舗立地等の影響による中心部の空洞化（空き店舗対策等）、中心市街地の歩行者に配慮した道路や憩い空間、商店の後継者不足
- ・交通・道路：山間部の移動手段・公共交通、鉄道とバスの連携した公共交通の利便性向上、市街地部の通過交通、地域ごとの生活圏を踏まえたアクセスの向上、市街地内の実態に合わせた交通規制の見直し
- ・山間部：人口減少による空き家の増加
- ・農業：専業農家の厳しい経営環境

●まちづくりの方向性

- ・観光のまちづくり：蔵などのまち並み景観、地域の食文化、眺望景観・自然景観等の活用
- ・少子高齢化に対応した暮らしやすいまちづくり：公共交通、歩行者の安全や歩きやすさ、水や緑によるうるおい

【 地域の特徴と課題 】

●市中心地域としての都市機能の充実と周辺地域との連携強化

- ・就業基盤の整備（工業団地の整備等）
- ・既存集積を活かした文化、医療、福祉機能の充実
- ・周辺地域からのアクセス利便性の向上（道路、公共交通機関等）
- ・市の顔としての中心地区の活性化と賑わいの創出
- ・観光商業機能、交流機能の充実
- ・低未利用地の計画的な基盤整備と土地利用の誘導

●豊かな田園環境や多くの河川の水環境の保全と景観やふれあいの場・機会の充実

- ・県内有数の稲作の基盤である農業環境の保全と既存集落や農家蔵と合わせた田園景観の保全
- ・河川緑地の保全、レクリエーション機能・親水機能の維持・充実
- ・サイクリングロード等を活用した、水と緑のネットワークの形成

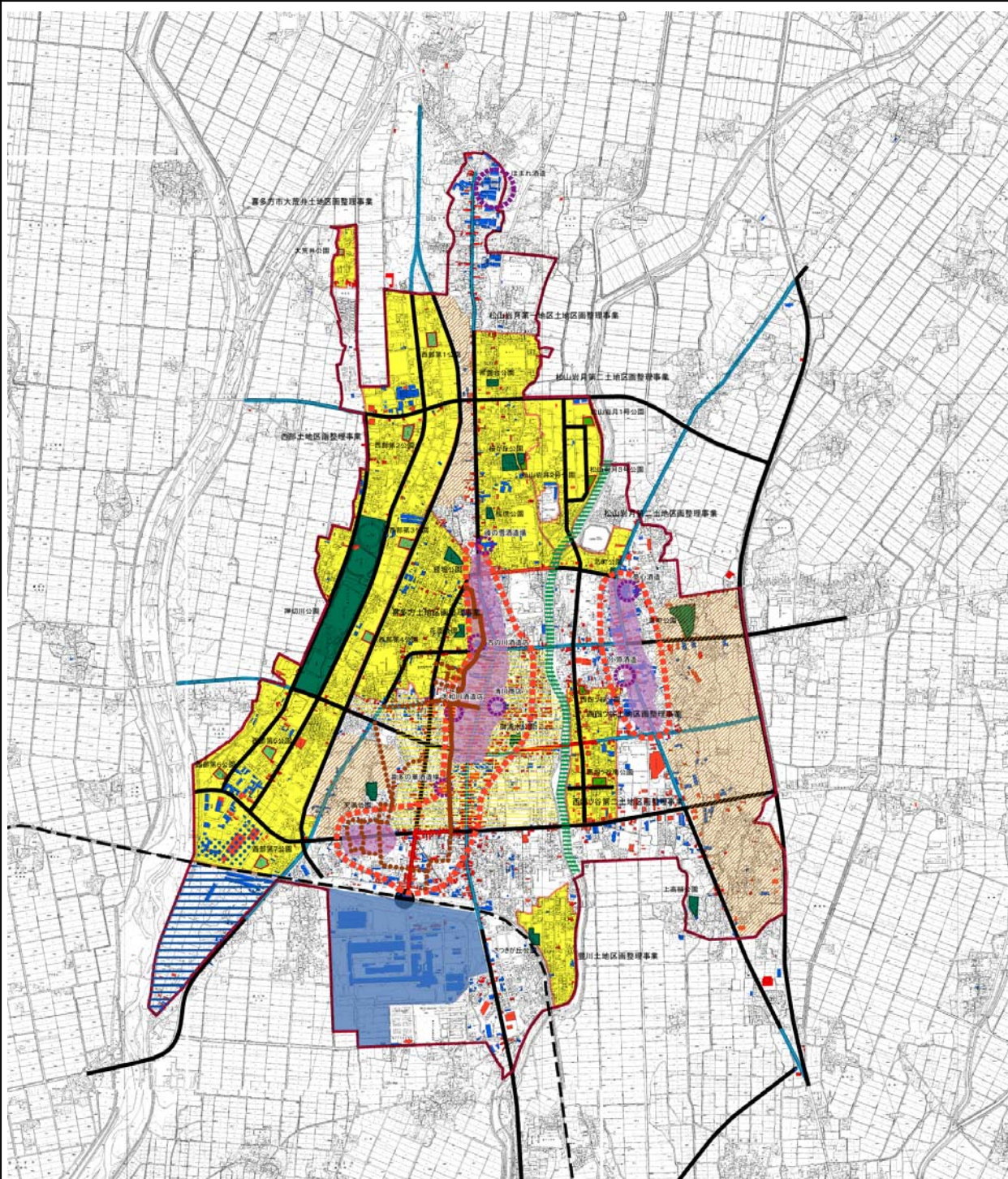
●少子高齢化に対応した安心して住み続けられる居住環境の整備と計画的な土地利用の誘導

- ・効率的・効果的な市街地の形成（歩いて暮らせる身近な生活圏の充実、街なか居住等）
- ・自然環境、田園環境と調和した都市的土地利用の誘導
- ・市民が誇りに思い愛着を育むことができる景観形成
- ・下水道、公園等の都市基盤施設の整備促進
- ・地すべり危険箇所、土石流危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所、雪崩危険箇所などの安全性の確保

●都市の骨格となる道路網の形成

- ・広域的な通過交通と市街地内の交通需要に対する円滑な交通流動の確保
- ・観光需要に対応した周辺地域との道路ネットワークの強化

【 喜多方市街地の特徴と課題 】



凡 例

都市計画道路整備状況

- 整備済
- - 整備中
- 未整備

歴史的地区環境整備街路事業(歴史のみちすじ)

- 整備済
- 未整備

面整備状況

- 整備済

公園整備状況

- 整備済
- 未整備

建物用途

- 商業系建築物
- 流通・工業系建築物

市街地の特徴

- 蔵が多くみられる地域
- 商店街等の活性化
- 未利用地の多く残る住宅地
- 密集市街地
- 優良企業の集積する工業地
- 未利用地の多く残る工業地
- 商業施設や福祉施設の混在が進む工業地
- 市街地内の河川空間の親水化
- 市街地内に残る造り酒屋

地 域 づ く り の テ ー マ

- 飯豊連峰、雄国山麓の眺望と、豊かな田園風景に囲まれた、
水と緑、歴史と食文化がいきるまち

地 域 の 基 本 構 想

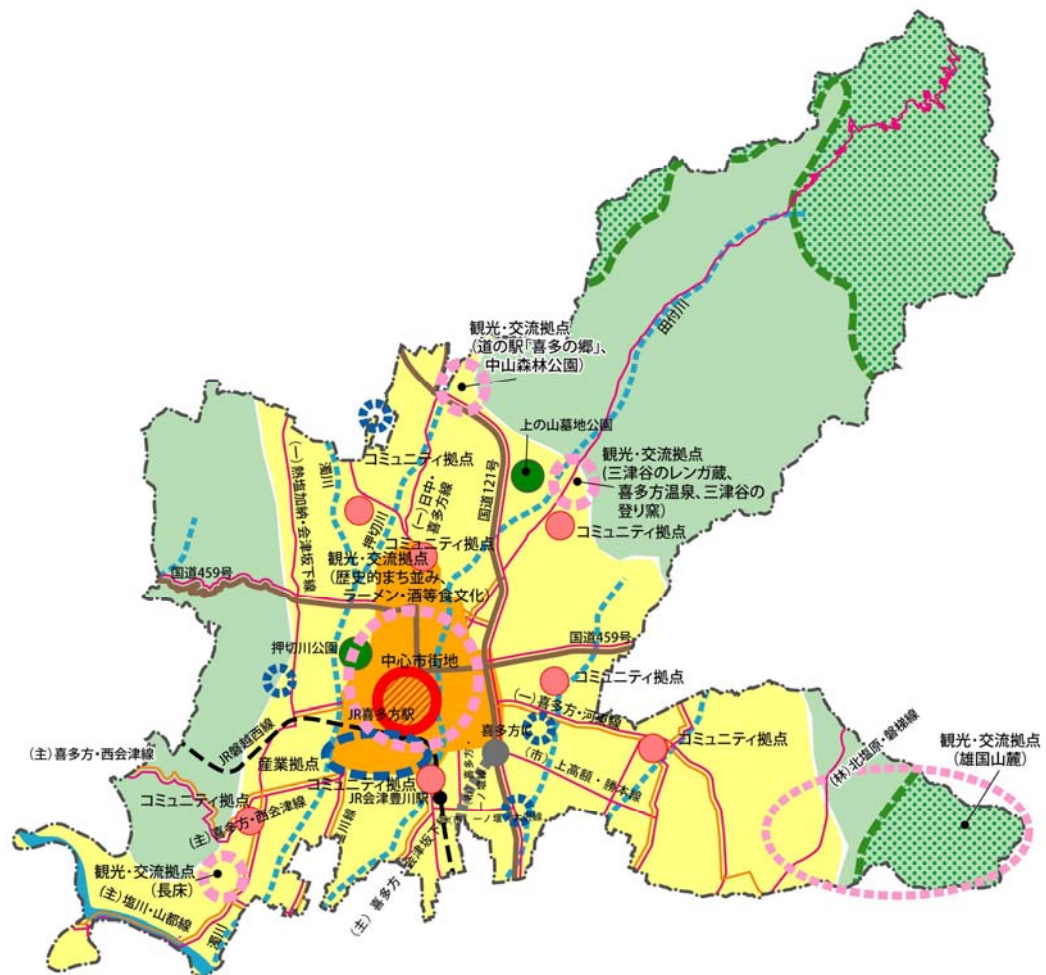
■地域づくりの目標

- 広域的な核となる中心市街地の整備、充実
 - ・会津北部地域の中心として、商業、業務、居住、生活関連サービス等の諸機能の整備、充実を図ります。
- 「蔵」や「商家」のまち並みを守り、活かした都市型観光の拠点形成
 - ・伝統的な「蔵づくり」や「商家」のまち並みを守り、育て、醸造や酒造、ラーメンなどの食文化と一体となった都市観光の拠点となる市街地形成を目指します。
- 若者が定住できる産業基盤、生活基盤の充実
 - ・工業団地などの産業基盤の整備や生活基盤の整備、市街地の整備により、若者が定住できる豊かでゆとりのある都市づくりを目指します。

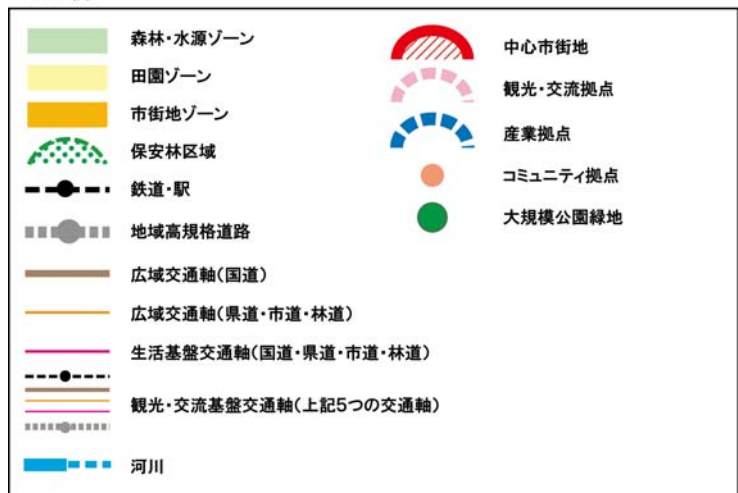
■地域の整備構想

- 中心市街地の整備・育成とコミュニティ拠点の充実
 - ・中心市街地については、歴史的環境と調和した都市の顔（核）として整備・育成を図ります。
 - ・中心市街地周辺地域については、各地区の公民館を中心として、それら施設の利活用や充実などにより、周辺集落コミュニティの育成を図ります。
- 都市型観光・交流拠点の形成
 - ・蔵づくりや商家などの保全、再生とともに、良好な景観やまち並み形成の誘導を図り、歩いて散策できる市街地環境の形成を図ります。
 - ・雄国沼の自然や雄国山麓の景観等を生かすとともに、グリーン・ツーリズムにより観光交流拠点の形成を図ります。
 - ・飯豊連峰を水源とする伏流水に育まれた酒や味噌、醤油などの伝統産業に加え、ラーメンその他の食文化を活かした観光拠点の形成を図ります。
- 産業拠点の整備促進
 - ・既存工業地における操業環境の充実を図るほか、必要に応じて広域交通条件を活かした工業用地の整備を行い、就業機会の確保と地域経済の活性化を図ります。
- 広域交通ネットワークの整備促進と市街地の環状道路の形成
 - ・会津縦貫北道路の整備により広域交通利便性の向上を促進するとともに、国道121号、国道459号を南北、東西の骨格軸とし、周辺地域や隣接都市との連携強化を図ります。
 - ・市街地内の都市計画道路の整備を進め、歴史的な中心市街地を囲む環状道路を形成し、市街地内への自動車交通の流入を抑制します。
 - ・既存の県道・市道網等の整備により、中心市街地と周辺地域を結ぶネットワークを形成します。

【 喜多方地域の整備構想図 】



凡 例



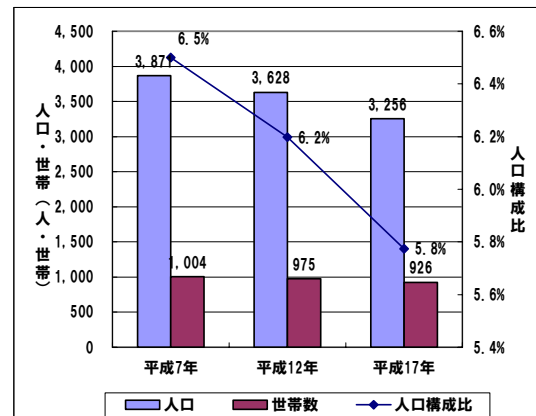
○熱塩加納地域

地域の現況特性と現状の課題

【位置図】



【人口・世帯の動向】



資料：国勢調査

【地域の概況と動向】

人口等の動向	- 市全体に対する人口シェアは5.8%（H17）で、人口及び世帯数ともに減少が続いています。 - 高齢化が急激に進行しており、高齢化率（H17・33.2%）は、市平均（30.3%）、県平均（22.7%）を上回っています。
土地利用状況	- 地域の約88%を山林が占め、平坦地は約10%と少なめです。 - 南東部は扇状に開き会津盆地の最北端にあたり、水田や畑地が広がっています。 - 集落は盆地部の沿道や山麓部、谷間等の平地に散在し、典型的な散居村景観を呈しています。押切川左岸には、熱塩温泉街が形成されています。
基盤施設整備状況	- 本市の南北方向の広域交通軸でもある国道121号及び県道4路線が地区の骨格を形成しています。生活道路は狭隘、袋小路などのエリアがみられます。 - 地区中心部にスポーツ施設が立地しています。 - 特定環境保全公共下水道による整備が進められています。 - 地すべり危険箇所、土石流危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所、雪崩危険箇所が指定されています。
生活利便施設状況	- 南部の総合支所周辺に行政、スポーツ、コミュニティ、福祉関係施設の集積があります。 - 医療施設がなく、地区内では出張診療のみの対応です。
法規制状況	- 北東端部は磐梯朝日国立公園に、北部山岳地は保安林に指定されています。 - 南東部の扇状地の押切川、濁川沿いの農地は農用地区域に指定されています。 - 楯峰一帯は、福島県自然環境保全地域に指定されています。
特徴的な地域の資源	- 主な観光資源としては、熱塩温泉、日中温泉、三ノ倉スキー場があります。 - 全国に先駆けて取組んだ有機農業は全国的に評価されています。

【 アンケート・懇談会意見等概要 】

□ アンケート結果の概要

●居住意向

- ・「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」が約 80%で高く、「住みよさ」の評価は高くなっています。
- ・「ずっと住み続けたい」も約 70%で、市全体の割合を上回っています。

●生活環境の満足度、重要度

- ・最も満足度が高いのが「上下水道の整備」で、次いで「消防体制の整備」、「騒音、水質など公害対策」です。その他は市全体の傾向と比較すると、『基盤整備』分野の満足度が比較的高くなっています。
- ・最も満足度が低いのが「林業の振興」で、次いで「工業の振興」、「農業の振興」となっており、「観光の振興」を除いて『産業の振興』分野の満足度が低くなっています。
- ・重要度が高いものの、満足度が低い指標は、「農業の振興」です。その他は市全体とほぼ同じ傾向で『保健・福祉・医療』、『安全・防災』分野の重要度が高くなっています。

□ 地域懇談会意見の概要

●地域の良いところ・活かすべき地域資源

- ・自然環境：現在の自然環境の保全が大前提
- ・観光資源：温泉、三ノ倉のスキー場・パラグライダー場
- ・その他：有機農業、ブランド農産物（さゆり米やアスパラガス等）、犯罪の少ない地域の安全性の高さ

●地域の問題・改善すべき点

- ・交通・道路：移動手段・公共交通、温泉街の道路整備（防災上の安全性向上）
- ・山間部：治山・治水に配慮した開発
- ・運動施設：既存施設の充実と有効活用
- ・少子高齢化・若年層の流出：農業後継者の不足、地域共同管理施設の維持管理における後継者不足による継続の難しさ、雇用の場の確保
- ・その他：滞在型観光の構築、農業被害への対応、行政・振興公社等と連携した地域振興の推進

●まちづくりの方向性

- ・交流人口の増加、誘導によるまちづくり（有機農業によるブランドイメージの確立・PR や都市との交流の発展、温泉等の観光資源や収穫体験などの体験型プランの活用）

【 地域の特徴と課題 】

- 本市の市街地を中心とする平坦部の上水道の水源であり、農林業を育んできた貴重な植生が分布する梅峰をはじめとする自然環境の保全・育成

- 若者の転出等による人口減少に対応した、定住化のための住みよい快適な居住環境の整備と就業の場の確保

- ・特別豪雪地帯といった自然環境や高齢化社会に対応した安全で安心できる利便性の高い道路環境の確保
- ・既存の生活利便施設の集積の活用・充実と周辺地域利用のための交通環境の改善
- ・国道 121 号大峠道路の整備による交通条件等を活かした工場誘致のための基盤整備

- 自然環境と調和した都市的土地利用の誘導と地域内エリアの個性化

- ・国道 121 号大峠道路の整備に係る地区の計画的な整備
- ・熱塩温泉街エリアの環境整備
- ・地すべり危険箇所、土石流危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所、雪崩危険箇所などの安全性の確保

- 有機米等の地域ブランドを活かし、観光産業との連携等による地域活力の増進

地 域 づ く り の テ ー マ

● 緑と清流が育む大自然といで湯、健康とうるおいに満ちた交流のまち

地 域 の 基 本 構 想

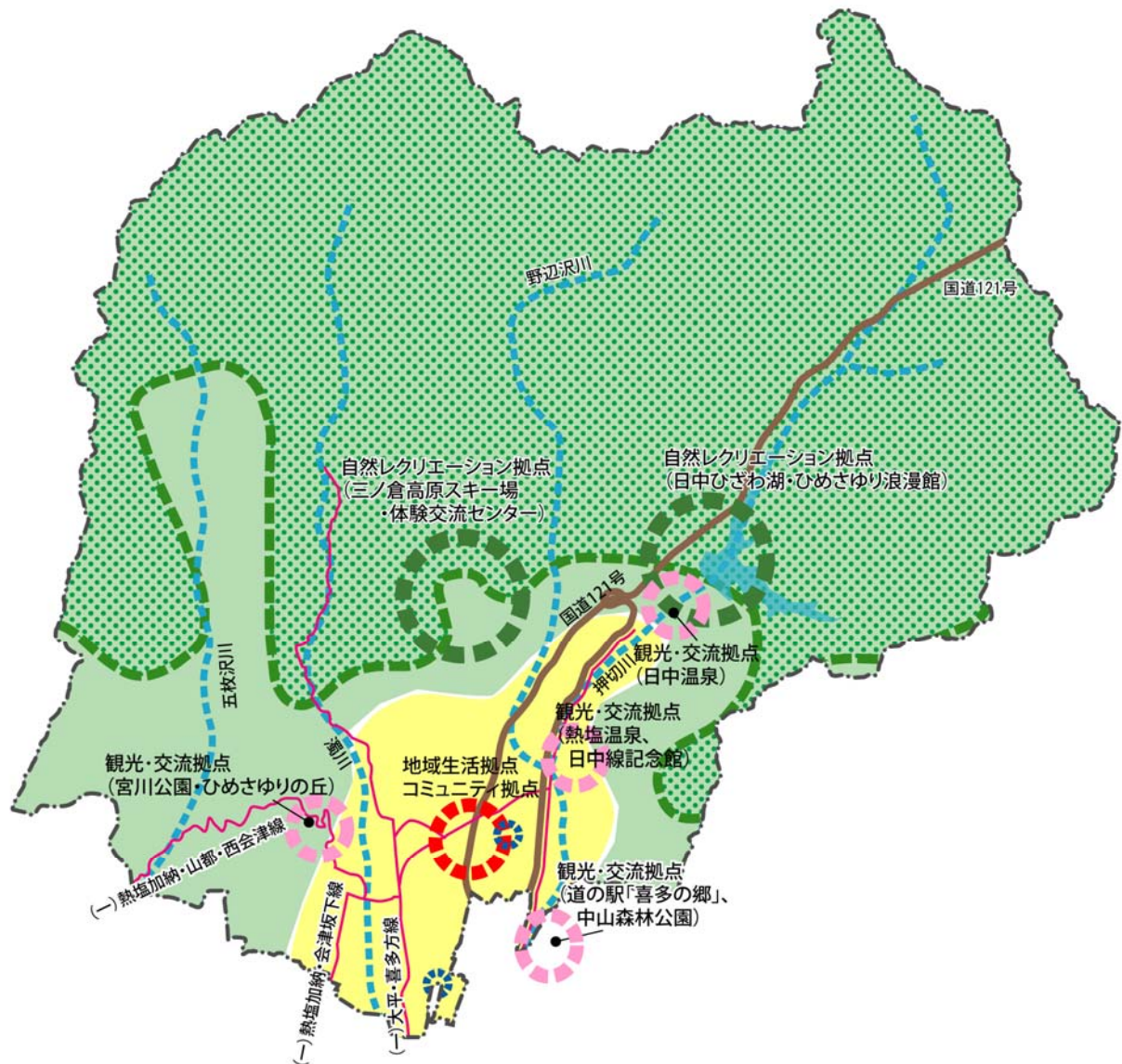
■地域づくりの目標

- 日常生活を支える機能やコミュニティの中心となる拠点の充実
 - ・行政機能や交通等基盤の整備や充実により、地域生活を支え、最も基本的な基盤であるコミュニティの維持・充実を図ります。
- 自然環境と調和した自然レクリエーション拠点の形成
 - ・地域北部の山林や河川・湖水等の水辺環境の保全・活用を図り、温泉資源や既存施設の充実により自然的観光レクリエーション拠点の形成を図ります。
- 先駆的な有機農業の振興と観光・交流の活性化
 - ・先駆的な農法による有機農業の振興や有機農業とも連携したグリーン・ツーリズムなどの観光・交流の活性化を図ります。

■地域の整備構想

- 地域生活拠点、コミュニティ拠点の充実
 - ・地域南部の国道 121 号沿いに位置する行政、スポーツ、コミュニティ、福祉サービス等の既存集積を活かした地域生活拠点及びコミュニティ拠点の充実を図ります。
- 観光・交流拠点の形成
 - ・熱塩温泉、日中温泉、ひめさゆりの丘、ひめさゆり浪漫館、日中線記念館等の観光資源の集積を活かし、恵まれた自然や水辺環境と調和した観光・交流の拠点形成を図ります。
 - ・先駆的な有機農法の蓄積と地域農林業との連携により、農業体験や里山体験などのグリーン・ツーリズムによる観光・交流の活性化を図ります。
 - ・直売所、その他販売形態の工夫により、農産物の販路拡大を図ります。
- 自然レクリエーション拠点の形成
 - ・三ノ倉高原、日中ひざわ湖などの資源の集積を活かし、自然環境と調和した自然・レクリエーションの拠点の形成を図ります。
- 産業基盤の整備
 - ・既存工業団地への企業誘致を推進するとともに、会津縦貫北道路や国道 121 号大峠道路の整備による交通条件を活かした産業基盤の整備を図ります。
- 交通ネットワークの充実・整備
 - ・国道 121 号を南北の骨格軸とし、喜多方中心市街地との連携を強化する。
 - ・(一) 熱塩加納・山都・西会津線、(一) 大平・喜多方線、(一) 熱塩加納・会津坂下線などの県道や市道網により、周辺地域との連携を強化するとともに、地域内の生活ネットワークを形成する交通網や公共交通機関の充実・整備を図ります。

【 熱塩加納地域の整備構想図 】



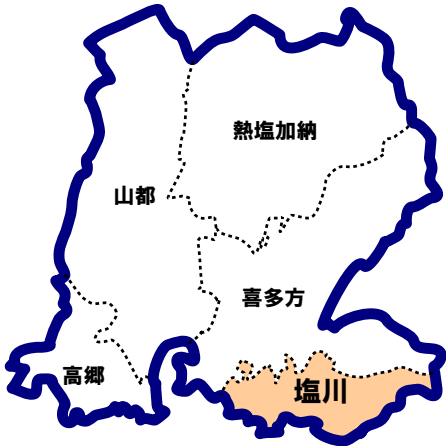
凡 例

	森林・水源ゾーン		地域生活拠点
	田園ゾーン		観光・交流拠点
	保安林区域		自然レクリエーション拠点
	広域交通軸(国道)		産業拠点
	広域交通軸(県道・市道・林道)		
	生活基盤交通軸(国道・県道・市道・林道)		
	観光・交流基盤交通軸(上記3つの交通軸)		
	河川		

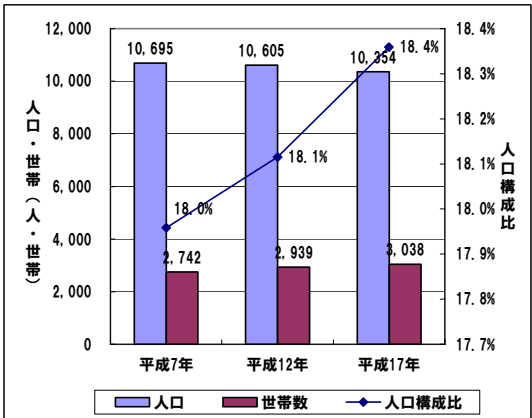
○塩川地域

地域の現況特性と現状の課題

【位置図】



【人口・世帯の動向】



資料：国勢調査

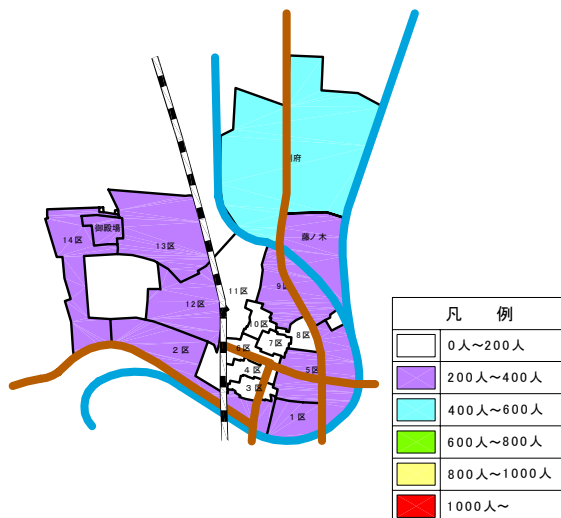
【地域の概況と動向】

人口等の動向	- 市全体に対する人口シェアは18.4%（H17）で、地域の人口は減少しています。 - 世帯数は増加傾向で、核家族化が進行しています。 - 用途地域内は増加傾向にありますが、駅周辺の旧市街地での人口減少が進んでいます。 - 高齢化が進行しており、高齢化率（H17・25.7%）は、県平均（22.7%）を上回っていますが、市内では最も低く、生産年齢人口比率は最も高くなっています。
土地利用状況	- 地域の東部は磐梯朝日国立公園に属する山岳地帯で、中央部から西部にかけての平坦地に農地が広がり、塩川駅周辺の用途地域の市街地の他、多くの集落が点在しています。 - 用途地域内は自然的空地が約20%を占めています。宅地の約73%は住宅用地として利用されていますが、商業系用途地域内では住・商・工の用途混在がみられます。 - 鉄道から旧国道121号沿道までのエリアは古くからの商店街を形成していますが、商業系用途地域内でも住宅が多く混在し、空き家・空き地がみられます。 - 用途地域の北部には半導体等を製造する優良企業が立地する工業地が形成されています。駅西側の鉄道沿いの工業地ではセメントターミナルが立地しています。 - 姥堂川沿いにまとまった低未利用地が残存しています。また、大塩川沿いでは道路、公園、下水道が未整備の状態に住宅や施設の立地が進んでいます。
基盤施設整備状況	- 国道121号、JR磐越西線が南北方向の広域交通軸となっており、この他主要地方道・県道7路線が道路網の骨格を形成しています。 - 都市計画道路9路線は概ね整備済みですが、都市計画決定された塩川駅前広場（東西）は未整備です。（会津縦貫北道路塩川IC～湯川北IC間が供用開始） - 塩川駅の東西各1箇所で土地区画整理事業が実施されています。 - 塩川駅西土地区画整理事業地区内には4箇所の公園が計画決定されています。 - 阿賀川は未整備となっている区間の整備が進められています。 - 下水道は、姥堂川以南では概ね整備済みとなっており、姥堂川以北でも整備が進められています。 - 身神川排水機場が整備されていますが、排水機場への内水流入経路である身神川の上流部及びその支流が未整備となっています。また、洪水の被害が発生している地域があるものの、その対策は進んでいません。

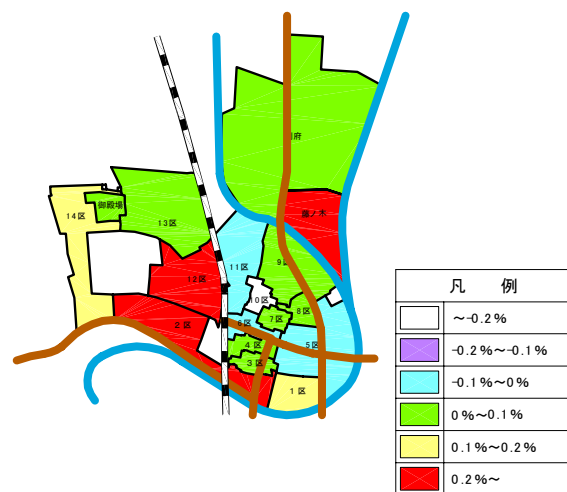
生活利便施設状況	・塩川駅東側の用途地域内に行政、業務、文化、医療施設等が集積しています。 ・公共施設、生活利便施設や学校が鉄道東側に集積していますが、鉄道により東西市街地が分断されており、通学時の安全性、駅利用の利便性に問題があります。 ・国道 121 号沿道に、スーパーマーケットや郊外型複合商業施設等が立地しており、駅周辺の市街地の商業施設は沈滞化しています。
法規制状況	・東部の山林の一部は保安林に指定されています。 ・中央の平坦部に都市計画区域（2,788ha）、用途地域（156.1ha）が指定されています。 ・用途地域外の平坦部は概ね農用地区域に指定され、西部では大規模なほ場整備事業が実施されています。
特徴的な地域の資源	・日橋川緑地での川下り、花火、バルーンフェスティバル、御殿場公園等の花しょうぶ・桜等の観光資源を有しています。 ・日橋川、大塩川、姥堂川の豊かな水辺空間や雄国山麓の遠景と一体となった「水と緑」の景観がまちの原風景として親しまれています。 ・阿賀川舟運の基地として、また米沢街道の重要な宿場としての繁栄の歴史があり、旧国道 121 号沿道等では「屋号とのれんの街」としての取り組みもみられます。

【市街地（用途地域）の人口】

行政区域別人口（H17）



行政区域別人口動向
（H17/H12）



資料：国勢調査

【 アンケート・懇談会意見等概要 】

□ アンケート調査結果の概要

●居住意向

- ・「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」が約 87%で地域別では最も高く、「住みよさ」の評価は高くなっています。
- ・「ずっと住み続けたい」も約 76%を超え、市全体の割合を 10%以上上回り、定住意向が強くなっています。

●生活環境の満足度、重要度

- ・最も満足度が高いのが「消防体制の整備」、次いで「ゴミ対策」、「国県道等の骨格的な道路の整備」です。その他の項目については市全体とほぼ同じ傾向がみられます。
- ・最も満足度が低いのが「鉄道・バスなどの公共交通機関の充実」で、次いで「行財政改革の推進」、「農業の振興」となっています。
- ・重要度が高いものの、満足度が低い指標は、「病院や診療所などの医療機関の充実」で、他の指標も合わせて『保健・福祉・医療』、『安全・防災』分野があげられています。

□ 地域懇談会意見の概要

●地域の良いところ・活かすべき地域資源

- ・自然景観：日橋川等の河川や雄国等の山々の遠景、国道 121 号東側の田園景観
- ・地理的条件：市中心部や周辺都市（会津若松、猪苗代、会津坂下、西会津方面等）へのアクセスの容易さ
- ・その他：御殿場公園

●地域の問題・改善すべき点

- ・市街地・中心市街地：中心部の空洞化、空き家の増加に対する利用の仕組み、既存施設の有効活用（高等技術専門学校等）
- ・交通・道路：公共交通、歩行者の安全性（歩道整備等）、ＪＲ塩川駅東西の連絡機能の強化
- ・集落部：空き家の増加に対する利用の仕組み
- ・少子高齢化：子育て環境（学校の統廃合等）、居住環境や住宅供給の仕組み
- ・その他：情報通信基盤の充実、災害対策、企業立地環境の向上、地球環境への配慮

●まちづくりの方向性

- ・居住・子育て・企業立地環境の良いまちづくり：自然環境・自然景観の保全や活用、歩行者の安全性の確保、地理的利便性の利活用、企業支援・企業等の誘致、安価な宅地・住宅供給の仕組みづくり

【 地域の特徴と課題 】

●少子高齢化に対応した安心して住み続けられる居住環境の整備と魅力ある居住環境づくり

- ・地域内の循環型の移動交通手段の確保（福祉、医療関係施設は塩川駅東側に集積）
- ・土地区画整理事業実施地区について地区の田園環境と調和した良好な景観形成等の市街化の誘導
- ・下水道、公園等の都市基盤施設の整備促進
- ・新旧市街地の特性を活かしつつ、地区中心として一体感のあるまちづくり（歴史が感じられるまち並みづくり（屋号とのれんのまち並み））
- ・ＪＲ塩川駅の東西を効率的かつ安全に結ぶ歩行者動線の確保
- ・低未利用地が多く残る住宅系用途地域の基盤整備

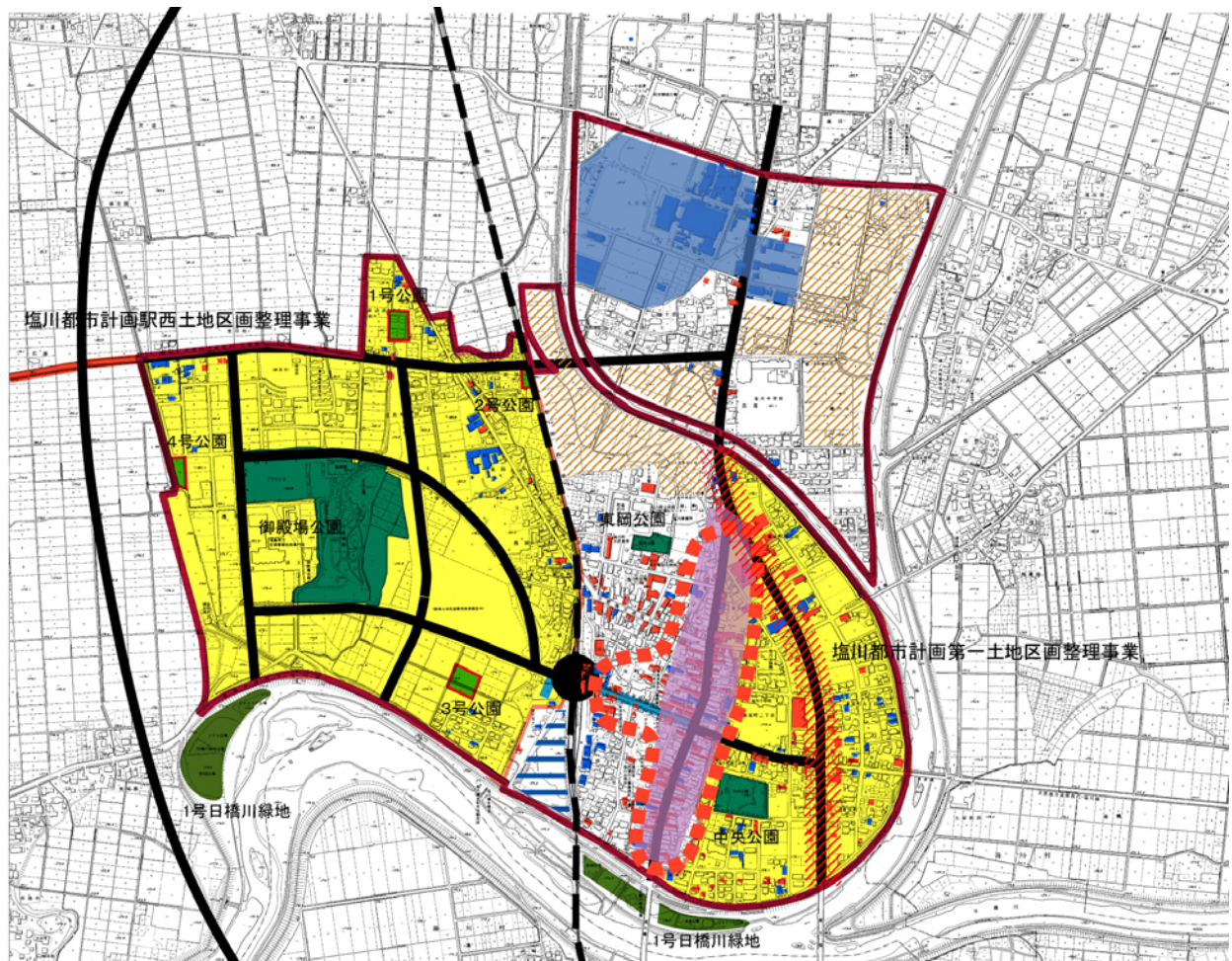
●豊かな自然、田園環境や河川の水環境の保全と景観やふれあいの場・機会の充実

- ・東部の森林ゾーンの保全
- ・基盤の整った農業環境の保全・充実と既存集落と一体となった田園景観の保全
- ・河川緑地の保全、観光産業と連携したレクリエーション機能・親水機能の充実
- ・平坦部の多い地形的条件を活かし、住民が気軽に楽しめる水と緑のネットワークの形成
- ・水害に強い市街地の形成、安全性の確保

●都市の骨格となる道路網の形成

- ・広域的な通過交通と市街地内の交通需要に対する円滑な交通流動の確保
- ・会津縦貫北道路及び IC 及び周辺地区との道路ネットワークの強化

【 塩川市街地の特徴と課題 】



凡 例

都市計画道路整備状況

- 整備済
- - 整備中
- 未整備

面整備状況

- 整備済

公園整備状況

- 整備済
- 未整備

建物用途

- 商業系建築物
- 流通・工業系建築物

市街地の特徴

- 歴史が感じられる街並み（のれんの街並み）
- 商店街等の活性化
- バイパス沿道への商業施設の立地
- 未利用地の多く残る住宅地
- 優良企業の集積する工業地
- 未利用地の多く残る工業地

地 域 づ く り の テ ー マ

●阿賀川、日橋川の流れ、ゆたかな田園環境と

ゆとりある住まいが調和した、川のまち

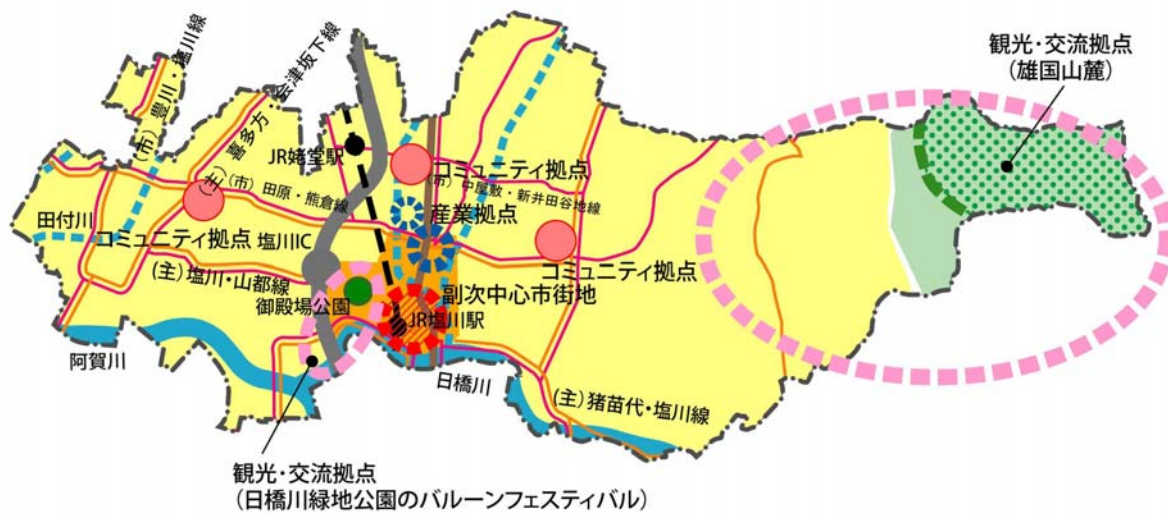
地 域 の 基 本 構 想

■地域づくりの目標

- 喜多方の南の玄関口としての副次的な市街地の整備、充実
 - ・駅周辺には一定の都市機能が集積していることから、商業機能の充実など日常生活の中心拠点となる市街地の整備・充実を図ります。
- 舟運による商都として栄えてきた歴史と、豊かな河川環境を活かしたまちづくり
 - ・日橋川などの河川を活かしたまちづくりを目指します。
- 喜多方中心市街地と会津若松市の間に位置する地理的特性を活かし、定住できる生活基盤の整備促進
 - ・田園や自然的環境と調和したうるおいのある居住環境の形成や、既存工業団地等の基盤充実により、若者も定住できる生活基盤の形成を目指します。

■地域の整備構想

- 副次中心市街地の形成、コミュニティ拠点の充実
 - ・JR 塩川駅東口に立地する商業機能、コミュニティ施設、行政、福祉サービス等の既存集積を活かし商業立地の誘導を図るとともに、JR 磐越西線により分断された東西市街地の一体化を図ることにより、副次的な中心拠点の充実を図ります。
 - ・市街地の周辺地域については、堂島、姥堂、駒形の各公民館等を中心として、それら施設の活用や充実などにより、周辺集落コミュニティの育成を図ります。
- 川を活かした観光・交流拠点の充実
 - ・日橋川やゆとりある河川敷などの環境を活かし、水と親しむことのできる環境整備や川下り、花火、バルーンフェスティバルの開催など、河川環境を活かしたまちづくりを進めます。
- 定住のできる生活基盤の整備促進
 - ・市街地北側の既存工業地や住宅地の基盤整備、生活サービス機能の充実を図り、幅広い世代に支持される魅力ある居住環境の整備を進めます。
 - ・新たな住宅等の建築は土地区画整理事業地内へ誘導し、無秩序な市街化を抑制します。
- 交通ネットワークの整備促進
 - ・会津縦貫北道路の整備により広域交通の利便性の向上を促進し、さらに国道 121 号を南北の骨格軸とし、都市計画道路や既存の県道・市道網等により周辺地域や隣接都市との連携を図ります。
 - ・また、既存道路網のネットワークを強化し、観光交流機能へのアクセスの向上を図ります。
- 水害に強い市街地の形成
 - ・市街地に流れ込む河川や排水路の整備を促進し、水害に強い市街地を形成します。



	森林・水源ゾーン		副次中心市街地
	田園ゾーン		観光・交流拠点
	市街地ゾーン		産業拠点
	保安林区域		コミュニティ拠点
	鉄道・駅		大規模公園緑地
	地域高規格道路		
	広域交通軸(国道)		
	広域交通軸(県道・市道・林道)		
	生活基盤交通軸(国道・県道・市道・林道)		
	観光・交流基盤交通軸(上記5つの交通軸)		
	河川		

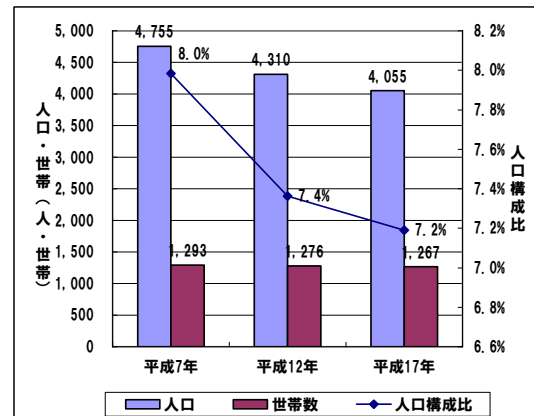
○山都地域

地域の現況特性と現状の課題

【位置図】



【人口・世帯の動向】



資料：国勢調査

【地域の概況と動向】

人口等の動向	- 市全体に対する人口シェアは7.2%（H17）で、人口減少が続いています。 - 高齢化が急激に進行しており、高齢化率（H17・47.5%）は市内で最も高く、市平均（30.3%）、県平均（22.7%）を大きく上回っています。 - 高齢者世帯（単身・夫婦）の増加によるとみられる、世帯の小規模化が進んでいます。
土地利用状況	- 地域の約82%を山林が占め、地形的条件が厳しく、可住地は比較的少なめです。 - 南部の河川沿い、特に阿賀川南部の平坦地にはまとまった農地が広がっています。 - JR 磐越西線山都駅周辺から総合支所周辺にかけて中心地区が形成されている他、一ノ戸川沿いを中心に多くの集落が点在しています。
基盤施設整備状況	- JR 磐越西線及び国道459号が東西方向の広域交通軸となり、他に県道5路線が走り、バス路線にもなっている（一）一ノ木・藤沢線が南北方向に集落を結んでいます。 - 地区南部にスポーツ施設が立地しています。 - 地すべり危険箇所の指定も多く、治山・治水事業が推進されていますが、地形的・地質的条件は厳しいです。 - 地すべり危険箇所、土石流危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所、雪崩危険箇所が指定されています。
生活利便施設状況	- JR 磐越西線山都駅周辺から総合支所周辺にかけて、商業、行政、教育、福祉関係施設等の集積があります。 - 集落地区ごとの集会所等がコミュニティ拠点となっています。
法規制状況	- 北部は磐梯朝日国立公園特別地域及び保安林の指定がなされています。 - 阿賀川南部のまとまった農地及び一ノ戸川、宮古川沿いは農用地区域に指定されています。
特徴的な地域の資源	主な地域資源としては、会津山都そば、飯豊山等登山、温泉、釣り等があります。

【 アンケート・懇談会意見等概要 】

□ アンケート結果の概要

●居住意向

- ・「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」が約 65%で、市全体の割合を下回っています。
- ・「ずっと住み続けたい」も約 63%で、市全体の割合とほぼ同じです。

●生活環境の満足度、重要度

- ・最も満足度が高いのが「上下水道の整備」、次いで「消防体制の整備」、「ゴミ対策」です。市全体では比較的満足度が高い『教育・文化』分野の満足度が低くなっています。また、34 指標中 2.50 を上回っているものは 8 指標で、地域別の中では最も低い評価となっています。
- ・最も満足度が低いのが「工業の振興」、次いで「農業の振興」となっており、「観光の振興」を除いて『産業の振興』の各指標の満足度が低くなっています。
- ・重要度が高いものの、満足度が低い指標は、「病院や診療所などの医療機関の充実」です。その他は市全体とほぼ同じ傾向で『保健・福祉・医療』、『安全・防災』分野の重要度が高くなっています。

□ 地域懇談会意見の概要

●地域の良いところ・活かすべき地域資源

- ・自然環境・自然景観：飯豊山、川（一ノ戸川等）、水（飯豊連峰からの伏流水）、福寿草の群生、沼の平の景観
- ・その他：「そばの里」としての会津山都そば、鉄道関連資源（SL 運行、橋梁のライトアップ）

●地域の問題・改善すべき点

- ・駅周辺・商店街：玄関口に相應しい駅前環境整備、中心商店街の活性化、雰囲気の良いまち並み景観づくり
- ・交通・道路：移動手段・公共交通、幹線道路の冬期交通の確保、歩行者等の通行安全性の向上
- ・少子高齢化・人口減少：限界集落対応、地域内二地域居住等の検討
- ・その他：観光資源の発掘・活用・充実による魅力度アップ

●まちづくりの方向性

- ・観光によるまちづくり：飯豊山・一ノ戸川・自然景観・食（そば）の活用、鉄道事業との連携

【 地域の特徴と課題 】

●飯豊山をはじめとする国立公園等の自然環境の保全と自然とふれあう場としての活用

- ・自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を活かしたエコ・ツーリズムの推進
- ・森林セラピーの活用（セラピーロードや拠点となる基地の検討）

●超高齢社会に対応した安心できる居住環境の整備と地域外・他都市との交流促進による活性化

- ・公共交通等の移動手段の確保や情報通信基盤の導入
- ・特別豪雪地帯といった自然環境に対応した交通環境の整備
- ・グリーン・ツーリズム、都市住民の定住、二地域居住の促進

●固有の既存資源を活かした魅力あるエリアづくり

- ・JR 磐越西線山都駅周辺から総合支所周辺の“山都の玄関口”及び中心エリアとしての魅力づくり
- ・神秘的な自然や既存施設の利活用による山間集落独自の自然風土を活かした魅力づくり
- ・地すべり危険箇所、土石流危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所、雪崩危険箇所などの安全性の確保

●各都市の観光資源との連携による観光の振興

- ・山都そば、飯豊山等登山、温泉、釣り等の地域資源を活かした観光の振興
- ・景観の活用（ビューポイントなどの発掘と活用）

地 域 づ く り の テ ー マ

● 霊峰「飯豊山」と一ノ戸川の清流に育まれた、心豊かな山里のまち

地 域 の 基 本 構 想

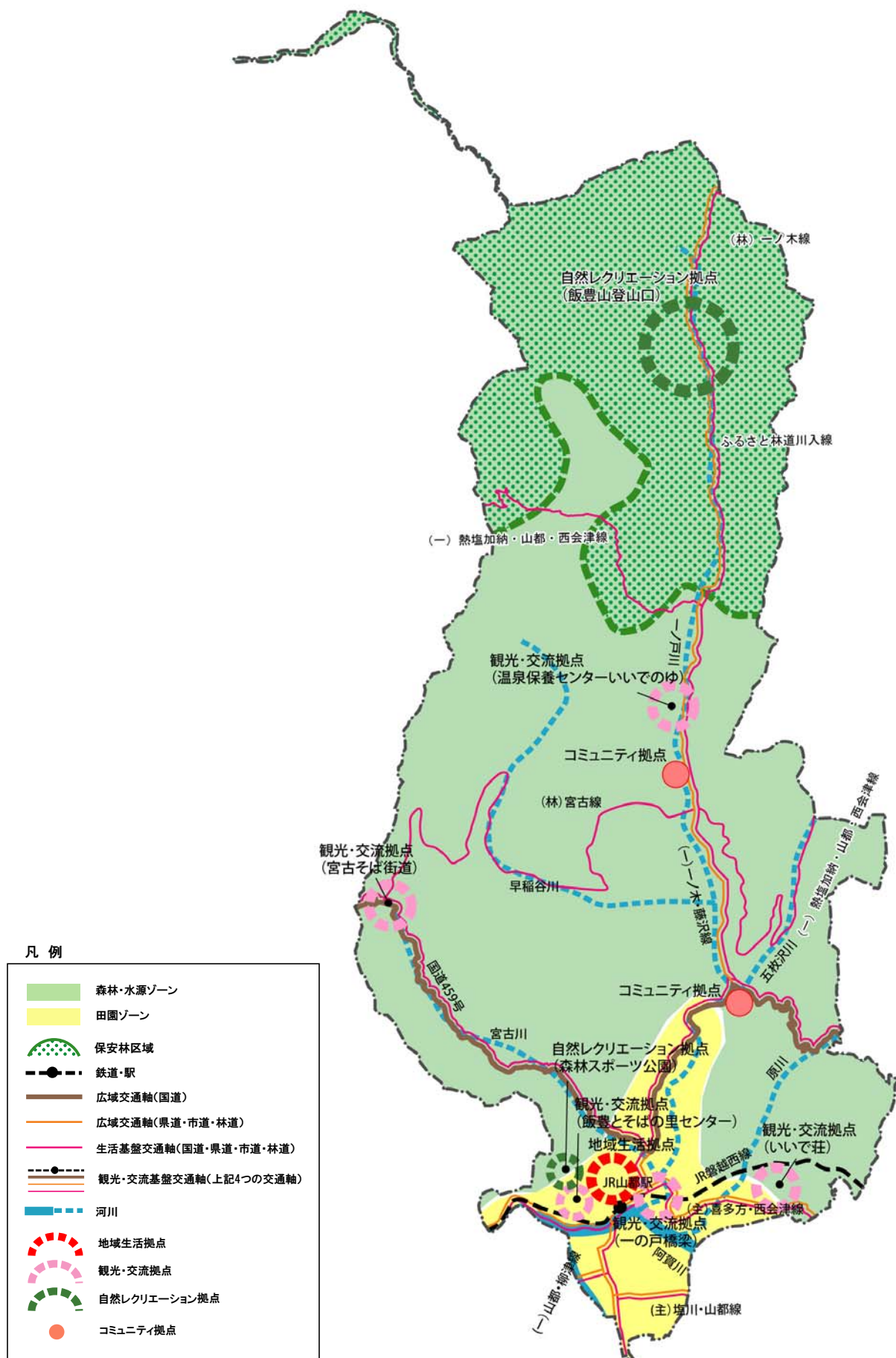
■地域づくりの目標

- 日常生活を支える機能やコミュニティの中心となる拠点の充実
 - ・行政機能、交通や情報通信等の基盤の整備や充実により、地域生活を支え、最も基本的な基盤であるコミュニティの維持・充実を図ります。
- 自然環境と調和した自然レクリエーション拠点の形成
 - ・地域北部の飯豊山麓の山林や河川等の水辺環境の保全・活用を図り、溪流や飯豊登山口としての自然レクリエーション拠点の形成を図ります。
- 温泉や会津山都そばなどの資源を活かした観光・交流の活性化
 - ・いいでのゆなどの温泉施設やそばの産地としての特性を活かし、自然レクリエーションと連携した観光・交流の活性化を図ります。
 - ・景観ビューポイントの発掘と活用を図ります。

■地域の整備構想

- 地域生活拠点、コミュニティ拠点の充実
 - ・地域南部、JR 山都駅周辺地区は、行政サービス、スポーツ、コミュニティ、福祉サービス等の既存集積を活かした地域生活拠点の充実を図ります。
 - ・一ノ木、相川地区については、既存の集会施設等を中心として、それら施設の利活用や充実などにより、周辺集落コミュニティの育成を図ります。
- 観光・交流拠点の形成
 - ・温泉保養センターいいでのゆなどの温泉宿泊施設、飯豊とそばの里センターなどの観光施設の充実と「会津山都そば」「一の戸橋梁」といった地域資源の活用を図り、恵まれた自然や水辺環境と調和した観光・交流の拠点形成を図ります。
- 自然レクリエーション拠点の形成
 - ・飯豊山の登山口としての基盤を充実し、自然レクリエーション拠点の形成を図ります。
 - ・豊かな自然を活用した森林セラピー導入や清らかな一ノ戸川などの溪流の活用による自然レクリエーション拠点の形成を図ります。
- 交通ネットワークの充実・整備
 - ・国道 459 号、(主) 喜多方・西会津線を東西の骨格軸とし、喜多方中心市街地との連携を強化します。
 - ・(主) 会津坂下・山都線、(主) 塩川・山都線により、塩川地区や隣接の会津坂下町との連携を図ります。
 - ・(一) 一ノ木・藤沢線、(一) 熱塩加納・山都・西会津線などの県道網により、地域内の生活ネットワークを形成するとともに、周辺地域との連携を強化します。
 - ・(林) 一ノ木線の整備を促進し、既存道路網とのネットワークを強化して、観光交流機能へのアクセスの向上を図ります。

【 山都地域の整備構想図 】



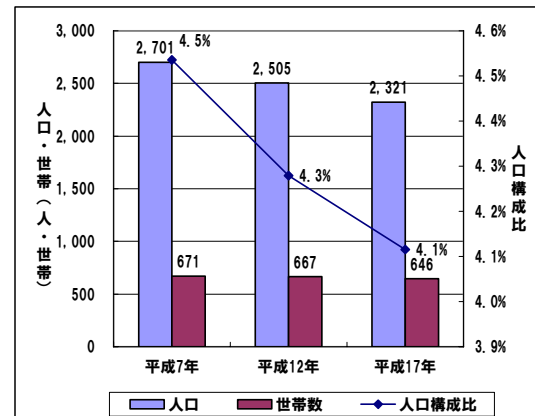
○高郷地域

地域の現況特性と現状の課題

【位置図】



【人口・世帯の動向】



資料：国勢調査

【地域の概況と動向】

人口等の動向	- 市全体に対する人口シェアは 4.1% (H17) で、人口減少が続いており、若年層の流出がみられます。 - 高齢化が急激に進行しており、高齢化率 (H17・34.7%) は、市平均 (30.3%)、県平均 (22.7%) を大きく上回っており、市内では山都地域に次いで高くなっています。 - 高齢者世帯 (単身・夫婦) の増加によるとみられる、世帯の小規模化が進んでおります。
土地利用状況	- 地域の約 56% を山林が占め、只見川・阿賀川の河岸段丘の平地には農地、集落が分布しています。 - JR 磐越西線荻野駅周辺は、地域内では住宅、商店等の集積がみられるエリアです。
基盤施設整備状況	- JR 磐越西線が広域交通軸であり、この他主要地方道・県道 6 路線が道路の骨格となっていますが、地形的制約で蛇行区間が多くなっています。バス路線は荻野駅、川井を起点として会津坂下方面と連絡しています。 - 地すべり危険箇所、土石流危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所、雪崩危険箇所が指定されています。
生活利便施設状況	- 南部の西羽賀・夏井地区周辺に総合支所、運動施設、カイギウランドたかさとが立地しています。 - JR 磐越西線荻野駅周辺は、商業、行政機能、教育施設等の集積があります。
法規制状況	只見川、阿賀川沿岸の南部の平坦地と山間部に散在する農地は農用地区域に指定されています。
特徴的な地域の資源	- ふれあいランド高郷の温泉施設やそでやま夢交流館による観光交流機能、荻野漕艇場でのボート体験や中学校寄宿舎利用による宿泊体験など各種体験機能があります。 - カイギウランドたかさとで、化石発掘体験ができます。

【 アンケート・懇談会意見等概要 】

□ アンケート結果の概要

● 居住意向

- ・「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」が約 50%で、地域別の中では最も低くなっています。
- ・「ずっと住み続けたい」も約 46%で、市全体の割合を約 18%下回っています。

● 生活環境の満足度、重要度

- ・最も満足度が高いのが「上下水道の整備」、次いで「消防体制の整備」、さらに「騒音、水質などの公害対策」、「文化財の保護・地域文化の振興」が続いています。
- ・最も満足度が低いのが「農業の振興」、次いで「病院や診療所などの医療機関の充実」となっており、『産業の振興』の満足度が低くなっています。
- ・重要度が高いものの、満足度が低い指標は、「救急医療体制（夜間・休日・救急）の整備」、次いで、「児童福祉（子育て支援等）の充実」です。その他は市全体とほぼ同じ傾向で『保健・福祉・医療』、『安全・防災』分野の重要度が高くなっています。

□ 地域懇談会意見の概要

● 地域の良いところ・活かすべき地域資源

- ・自然環境・自然景観：地形的特性を活かした風力発電等新エネルギーの導入
- ・地理的条件：広域幹線道路（磐越自動車道 I.C.）からのアクセスの利便性
- ・その他：廃校舎や遊休施設、遊休耕地などの未利用資源、荻野漕艇場、化石資源

● 地域の問題・改善すべき点

- ・交通・道路：移動手段・公共交通、来街者への交通案内、冬期の通行安全性の確保
- ・少子高齢化・人口減少：子育て環境（学童保育等）、雇用の場や若者にとっての街の魅力等総合的な定住対策、限界集落への対応
- ・その他：情報通信基盤の充実、地域資源を活かした施設づくり（木の活用）、施設の耐震化、既存観光施設の機能充実（ふれあいランド高郷）

● まちづくりの方向性

- ・交流人口の増加、誘導によるまちづくり：自然環境・景観の保全・活用、既存観光・レクリエーション資源（漕艇場、化石、温泉等）の活用、喜多方の西の玄関口としてこれまでの通過交通となっている観光客の誘導

【 地域の特徴と課題 】

● 地域中央部を流れる阿賀川、只見川の水環境や地域を取り囲む緑の自然環境の保全と自然とふれあう場としての活用

● 川・ポートなどの“水”を活かした拠点整備、景観づくり

- ・山、川などの自然素材の活用
- ・ポート、化石発掘体験などの体験型学習素材の活用
- ・景観ビューポイントの発掘と活用を図ります
- ・地すべり危険箇所、土石流危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所、雪崩危険箇所などの安全性の確保

● 超高齢社会に対応した安心できる居住環境の整備と地域外・他都市との交流促進による活性化

- ・公共交通等の移動手段の確保や情報通信基盤の導入
- ・特別豪雪地帯といった自然環境に対応した交通環境の整備
- ・荻野漕艇場における、ポートイベント等の実績を活かした交流機会の拡大、遊休施設等の活用

● 安全で分かりやすい道路環境の確保と通過交通の活用

- ・観光等の地域に訪れる人に分かりやすい誘導
- ・通過交通の受け皿として、休憩施設といった拠点の整備と産品販売との連携

地 域 づ く り の テ ー マ

- 大河の流れと緑、太古のロマンに抱かれた
自然レクリエーションによる交流のまち

地 域 の 基 本 構 想

■地域づくりの目標

- 日常生活を支える機能やコミュニティの中心となる拠点の充実
 - ・行政機能、交通や情報通信等の基盤の整備や充実により、地域生活を支え、最も基本的な基盤であるコミュニティの維持充実を図ります。
- 河川や森林の自然を活用した癒しやレクリエーション拠点の形成
 - ・豊かな地域資源や素材を活かし、交流と癒しの拠点形成を図ります。
 - ・荻野漕艇場を中心に河川・水辺レクリエーションや自然体験型学習の拠点形成を図ります。
- 温泉や雷神そば、化石発掘等の資源を活かした観光・交流の活性化
 - ・温泉やそば打ち体験施設のほか、化石発掘体験、炭焼き体験など特徴的な地域資源を活かした、観光・交流の活性化を図ります。
 - ・自然の持つ癒しの効果、地域の食や体験素材を活用した長期滞在型交流の推進。
 - ・景観ビューポイントの発掘と活用。

■地域の整備構想

- 地域生活拠点、コミュニティ拠点の充実
 - ・南部の西羽賀地区に立地する行政機能等の集積を活かし、地域生活拠点及びコミュニティ拠点の充実を図ります。
 - ・高郷公民館を中心として、周辺集落コミュニティの育成を図ります。
- 自然レクリエーション、観光・交流拠点の形成
 - ・ふれあいランド高郷、そでやま夢交流館などの温泉やそば打ち体験施設の集積を活かし、水と緑の環境と調和した観光・交流の拠点形成を図ります。
 - ・只見川、阿賀川のおだやかな流れや荻野漕艇場などの資源を活かした、水と自然のレクリエーション拠点の形成を図ります。
 - ・カイギウランドたかさとの化石発掘体験や高郷中学校寄宿舍利用による宿泊体験等の学習・文化活動の拠点形成を図ります。
- 交通ネットワークの充実・整備
 - ・広域的な連携と交流を促進するため、（主）会津坂下・山都線、（一）山都・柳津線を南北軸とし、会津坂下 I.C.からのアクセスを強化します。
 - ・（主）塩川・山都線及び（主）喜多方・西会津線を東西軸として、喜多方中心市街地や隣接する西会津町との連携や西会津 I.C.からのアクセスを強化します。
 - ・（一）上郷・舟渡線、（一）山都・柳津線などの県道網により、地域内の生活ネットワークを形成するとともに、周辺地域や隣接する会津坂下町との連携を強化します。
 - ・また、緑資源幹線林道の活用や既存道路網とのネットワークを強化し、観光交流機能へのアクセスの向上を図ります。

【 高郷地域の整備構想図 】



凡 例

	森林・水源ゾーン		地域生活拠点
	田園ゾーン		観光・交流拠点
	鉄道・駅		自然レクリエーション拠点
	広域交通軸(県道・市道・林道)		コミュニティ拠点
	生活基盤交通軸(国道・県道・市道・林道)		
	観光・交流基盤交通軸(上記3つの交通軸)		
	河川		